〇目次

・はじめに…

・第一章（オーバーツーリズム）

　・オーバーツーリズムの現状、問題点・課題

　・オーバーツーリズムの国内外の対応事例

　・ICTによるオーバーツーリズムの解消

・第〇章（考察）

　・ICTの活用・効果

　（・部門間の相互作用）

・おわりに（今後のオーバーツーリズムとICTの在り方）…

1. はじめに

　近年、日本だけに限らず様々な国々で「オーバーツーリズム」という問題が見られるようになった。オーバーツーリズムとは、観光地が耐えられる以上の観光客がその地に押し寄せている状態を意味する。オーバーツーリズムを日本語で表すと「観光公害」とも呼ぶ場合もある［1］。オーバーツーリズム化することがすべて悪いというわけではないが、国内外の観光客が一部の観光地へ集中しすぎていることにより、環境汚染・治安の悪化・交通渋滞など様々な問題が多発しているのが現状である。日本のオーバーツーリズム化の原因の一つとして、現在の日本は様々な国々との繋がり（グローバル化）が増えてきており、それに伴う外国人観光客、外国人住居者数がかなり増えてきている。

　それに加え、日本は国を挙げてインバウンド（訪日外国人観光）に力を入れている。2003年（平成15年）には、政府によるビジット・ジャパン・キャンペーンが立ち上げられ、国を挙げての観光の振興に取り組み観光立国を目指す方針を示し、訪日外国人観光客数年間1,000万人を目標とした。そこから10年後の2013年（平成25年）、訪日外国人観光客数1,000万人を突破すると、新たに2020年までに2,000万人、2030年までに3,000万人という目標が掲げられた［2］。こういった方針や政策、また2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定といったことから今後も訪日外国人観光客が増え、オーバーツーリズムの悪化につながる可能性がかなり高い。ちなみに、日本政府観光局（JNTO）の推計では2019年度時の約1年間の訪日外国人の総数は、なんと約2,900万人である。この数は、2020年の目標訪日外国人観光客数の2,000万人を優に超え、その前年度の2018年には約3,100万人という2030年の目標である訪日外国人観光客数の3,000万人に達したのである［3］。2018年から2019年にかけて、訪日外国人観光客数が少し減少してしまっているが、数年単位で見れば、この勢いはまだまだ落ちることがないように思われる。2020年には、上記したように東京オリンピック・パラリンピックが開催されることで訪日外国人観光客数の大幅な増加が見込まれる。そこで、日本政府観光局は、2020年の目標数を4,000万人に引き上げた。しかし、2019年以降訪日外国人観光客数の増加率が伸び悩んでいる。が、依然として、日本の外国人観光客数が増えていることには、間違いない。また、インバウンド外国人観光客数が高水準なイタリアやフランスと同水準まで拡大していることは、大きな進歩である［4］。

　このインバウンドの政策などによって、訪日外国人観光客が大幅に増加したことによるオーバーツーリズム問題を解消したい。オーバーツーリズムは、様々な地域で起こっているが、今回は京都のオーバーツーリズムに焦点を当てた。京都のオーバーツーリズムは、京都の歴史のある街並みやお寺、神社などの人々の生活の場そのものが観光の対象になっていることで、観光客と地域住民の動線（バス、電車、商店など）が重なり合い、住民の生活環境に悪い影響を及ぼしている問題がある。［5］実際の事例として、我が龍谷大学の近隣にある伏見稲荷大社や周辺地域でオーバーツーリズム化が見られている。伏見稲荷大社には、週末だけではなく平日からかなりの外国人観光客で朝から晩までにぎわう有名観光スポットの１つである。2017年度には、国内の初詣参拝客ランキングで、広島平和記念資料館についで第二位の277万人の参拝客が訪れている。2019年度の「外国人に人気の観光スポットランキング」では、６年連続で伏見稲荷大社がナンバーワンに輝いている［6］。そんな伏見稲荷大社におけるオーバーツーリズム問題を、我々大学生が解消をすることができるのではないかと考え、オーバーツーリズムの解消に向けて研究を行っている。

オーバーツーリズム解消の方法としては、これからの時代に必要不可欠ともいえる（ICT：Information and Communication Technology）情報通信技術を活用することでオーバーツーリズム解消を目指すこととした。近年、普及し発展し続けているICTだが、ICTの由来としては、以前からIT（情報技術）と呼ばれる言葉があり、このITに「Communication（通信）」を加えることにより、ITよりもより通信によるコミュニケーションの重要性を強調し、単なる情報処理にとどまらず、ネットワーク通信を利用した情報や知識の共有をより重要視したものをICTと呼ぶ［7］。

ICTの発展には、インターネットの普及が大きく影響している。このインターネットの利用者の推移だが、総務省の調査によると、2016年度のインターネットの利用者数は、前年度（2015）よりも38万人も増加して1億84万人にも及び、人口普及率は83,5％（前年比0,5％増加）となった［8］。10年単位で比較してみると、2006年度の利用者数は8,754万人であり、人口普及率は72,6％である。この10年間の間に10％以上向上していることが見て取れる。このインターネットの普及の背景に「電子メールの送受信」や「ソーシャルネットワークサービス（SNS）の利用」などができることが大きい。こういったインターネットの利用目的を持っているのが10代から30代辺りの層であり、彼らが今後の社会経済の中心となる世代のため、今後数年は衰退することなく、伸びていくのではないだろうか［9］。インターネットの普及によって、情報を簡単に拡散させることのできるSNSや文章や画像、音声を送る仕組みであるWEBが登場した。SNSやWEBの登場によりオンライン上でのコミュニケーションが一般的になった［10］。

研究のテーマであるオーバーツーリズムの解消に向けてICTを利用すると言ったが、大きく分けて３つのコンテンツを利用し、オーバーツーリズムの解消を目指す。①AI:Artificial　Intelligence(人工知能)、②SNS、③WEBの3つである。これらを利用しようと決めた要因は、これらのコンテンツが近年の社会経済において消費者と企業を繋ぐ役割であり、これからの労働の仕組みを変えるようなものでもある。これらをもっとローカル化した形で、それぞれのコンテンツ・部門間の市場を組み合わせること（三者間市場）で相乗効果を生み出し、地域活性化させることで、オーバーツーリズムの問題を解消することを目指した。この3つのコンテンツの利点・活用方法などは、それぞれ各章を設けてのちのち細かく説明していきたいと思う。

1章

オーバーツーリズムの現状

［1］高坂昌子―求められる観光公害（オーバーツーリズム）への対応

　＜<https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/jrireview/pdf/10798.pdf>＞

［2］日本のインバウンドの現状を知る―インバウンド観光入門

　＜<https://www.yamatogokoro.jp/beginner/>＞

［3］訪日外客統計（報道発表資料）

　＜<https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_listing/index.html>＞

［4］2020年のインバウンド客数　みずほ研究所

　＜<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/jp190708.pdf>＞

［5］京都が観光でパンクする⁉古都を襲う「オーバーツーリズム」の暴走

＜<https://www.msn.com/ja-jp/news/national/%E4%BA%AC%E9%83%BD%E3%81%8C%E8%A6%B3%E5%85%89%E5%AE%A2%E3%81%A7%E3%83%91%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%81%99%E3%82%8B%EF%BC%81%EF%BC%9F-%E5%8F%A4%E9%83%BD%E3%82%92%E8%A5%B2%E3%81%86%E3%80%8C%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%90%E3%83%BC%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0%E3%80%8D%E3%81%AE%E6%9A%B4%E8%B5%B0/ar-AAJFjz>＞

［6］外国人に人気の日本の観光スポットランキング２０１９

　＜<https://tg.tripadvisor.jp/news/ranking/best-inbound-attractions/>＞

［7］ICT（情報通信技術）とは？ITとの違いと政府が進めるICTの利活用

＜<https://hnavi.co.jp/knowledge/blog/ict/>＞

［8］総務省｜平成29年版　上情報通信白書｜インターネットの普及状況

　＜<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc262120.html>＞

［9］総務省｜平成30年版　上情報通信白書｜インターネットの利用状況

　＜<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd252120.html>＞

［10］総務省｜令和元年版　インターネットの登場・普及とコミュニケーションの変化

　＜<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r01/html/nd111120.html>＞